

1. 國澤先生

- ①演題：「食と腸内細菌が織りなす腸内環境の構築と
健康長寿社会の実現に向けた挑戦」
- ②概要：（食事として摂取した成分は腸管で吸収された後、体の一部となることから、食事の内容は健康状態に影響します。）腸管に存在する「腸内フローラ」とも呼ばれる多くの腸内細菌は、食事との相互作用も含め、様々な形で健康状態に影響を与えてることが分かってきた。本講演では油を例に、健康増進における食事や腸内細菌の可能性について、最新の知見を紹介する。

2. 栗原先生

- ①演題：「腸内常在菌叢の代謝産物の産生に関わる
遺伝子の制御による腸内環境の改善」
- ②概要：食餌を変化させると腸内細菌叢の組成よりもその遺伝子発現がより強く変化することが研究で明らかとなってきた。本講演では、腸内常在菌叢の遺伝子機能を解明し、制御することで、腸内細菌の代謝物組成を制御して腸内環境を改善することを目指した研究について紹介する。

3. 辻先生

- ①演題：「小腸と身体に優しい発酵食品」
- ②概要：小腸共生細菌である乳酸菌が特有の抗炎症メカニズムをもつことをみいだした。乳酸菌を多く含む発酵食品は世界各地で伝承されているが、とりわけ日本には優れた伝統発酵食品が多く、免疫など健康増進や自然治癒力との関係が注目される。